

③企業の災害ボランティア活動フォーラム

能登半島地震や東日本大震災を契機に、企業としての災害ボランティア活動への関心がさらに高まっていることから、県内企業を対象に、企業の災害時における支援活動や具体的な活動事例を紹介することで、災害ボランティア活動の普及と啓発を図るため、フォーラムを開催しました。

開催日：平成25年6月18日(火)13:30～15:30

開催場所：石川県庁11階 1105会議室

講演：「東日本大震災でのボランティア活動」

講師 木崎馨雄氏(社会福祉法人自生園 常務理事、那谷寺 副住職)

事例発表：みやの動物病院(院長 宮野浩一郎氏)

コープいしかわ(総合企画部 高島寛氏)



【学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会】

複数の大学や団体に所属する講師によるこの事業は2年目の試みであるため、実施にあたり、内容の検討及び結果の検証などを行う組織として研究会を設けています。

【事業の成果】

東日本大震災では若者や企業のボランティアが大きな力を発揮したという教訓を踏まえて昨年度から始まった「学生等災害ボランティアリーダー育成事業」は、全国的にも高等教育機関の集積度が高いという本県の特長から、大学コンソーシアム石川「シティカレッジ単位互換事業」を活用し、災害発生時に即応できる学生等の災害ボランティアの中核的人材を育成するプログラムや、企業を対象に災害ボランティア活動を普及・啓発するフォーラムなどを実施しました。

全15回のシティカレッジ講座の中には、多様な講師による講義やグループワークのほか、甚大な被害が残る宮城県石巻市などにおいて、小学生と交流するボランティア活動や復興活動で活躍するリーダーとの意見交換など、直接的に学ぶ実践活動が含まれ、地域や災害を強く意識することにつながりました。また、企業の災害ボランティア活動フォーラムでは、災害時に必要とされる支援活動を、フェーズに応じて、具体的に協働で行えるよう災害ボランティアへの関心を高めていただきました。

この事業を通して、初めて、大学の枠を超えた学生による災害ボランティアネットワークが立ち上がりました。情報発信や交流など様々な活動を行い、各大学で独自に活動している学生災害ボランティア団体のプラットフォームとなるものと期待されます。

【被災地における災害ボランティア実践活動に係る協力機関・協力者】

石巻専修大学	山崎省一 人間学部長
石巻専修大学	鈴木洋子 非常勤講師(門脇小学校前校長)
宮戸小学校	日下嘉充 校長、鍵頼信 教頭、教員・生徒の皆様
(特)石巻スポーツ振興サポートセンター	松村善行 理事長
(株)石巻日日新聞社	武内宏之 常務取締役
松島フットボールセンター	職員の皆様

多大なるご尽力に心より感謝申し上げます

【関係機関・関係者・協力者】

◇シティカレッジ講座

(一社)大学コンソーシアム石川、金沢大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、北陸学院大学、
(社福)石川県社会福祉協議会、日本赤十字社石川県支部、(公財)石川県県民ボランティアセンター

◇企業の災害ボランティア活動フォーラム

(社福)自生園 木崎馨雄 常務理事
みやの動物病院 宮野浩一郎 院長
コープいしかわ 高島寛 総合企画部職員

◇学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

【委員長】池田 幸應	金沢星稜大学人間科学部教授
【委員】八重澤 美知子	金沢大学国際機構教授
武山 雅志	石川県立看護大学看護学部教授
田中 純一	北陸学院大学人間総合学部准教授
茂尾 亜紀	石川県社会福祉協議会ボランティアセンター専門員
北村 裕一	日本赤十字社石川県支部防災ボランティアリーダー
上田 敏広	石川県県民ボランティアセンター専務理事兼事務局長

(順不同・敬称略)

実施主体：石川県県民ボランティアセンター 金沢星稜大学地域連携センター
問合せ先：石川県県民ボランティアセンター
金沢市香林坊2丁目4番30号香林坊ラモーダ7階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559 E-mail e130500a@pref.ishikawa.lg.jp

平成25年度 学生等災害ボランティアリーダー育成事業 活動報告書



【背景・目的】

石川県内の大学では、能登半島地震や東日本大震災を契機に災害ボランティアサークル等が立ち上げられ、それぞれ独自に活動を行っています。一方、甚大な被害をもたらした東日本大震災の被災地での活動環境は大変厳しく、とりわけボランティアリーダーには不眠不休と言っても過言ではない活動が求められ、石巻市では20～40代がボランティアリーダーの中心となっていました。

こうした現状の上で、地域防災力のさらなる向上を考えていくため、「若者」「顔の見える関係」をキーワードとし、災害ボランティア活動に積極的に取り組んでいる県内各大学や企業、NPOと県民ボランティアセンター、県社会福祉協議会、日本赤十字社石川県支部などが連携を密にし、県内での災害に迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えるためのきっかけとなることを目指して本事業を実施しました。

平成26年3月

石川県県民ボランティアセンター 金沢星稜大学地域連携センター

①シティカレッジ講座「課題演習（地域と災害）」

災害ボランティア活動における若手のリーダー的存在となる人材を育成するため、大学コンソーシアム石川のシティカレッジ単位互換事業を活用して、講義や実践活動、グループディスカッション等の講座を実施しました。

【講座内容】

日程	テーマ	内容・講師・会場
4/12 履修ガイダンス		履修希望者に対する事前説明 [講師]池田教授 [会場]大学コンソーシアム石川
4/19 第1回	学生と地域ボランティア、災害ボランティア	ボランティアの心得や学生と地域との関係、学生として今できる災害ボランティアについて講義 [講師]池田教授 [会場]大学コンソーシアム石川
5/11 第2回	地域防災計画とボランティア	地域防災計画におけるボランティア活動への支援や県内のこれまでの災害ボランティア活動について講義 [講師]上田専務理事兼事務局長 [会場]石川県NPO活動支援センター
5/24 第3回	災害避難所について学ぶ	能登半島地震の際の避難所の実状や課題についての講義及び避難所運営ゲーム [講師]七尾事務局長、武山教授 [会場]石川県社会福祉協議会
6/22 第4回	能登半島地震から学ぶ	過疎・高齢化地域で発生した能登半島地震における被災者支援の課題について講義 [講師]田中准教授 [会場]石川県社会福祉協議会
7/19 第5回	災害ボランティアの種類	災害時における社会福祉協議会の役割・活動や様々な災害ボランティア活動について講義 [講師]茂尾専門員 [会場]石川県社会福祉協議会
8/24 第6回	被災の実状を学ぶ実践活動事前研修	東日本大震災の被災の実状や各フェーズで必要となるボランティアの違いについて講義 [講師]北村防災ボランティアリーダー 実践活動参加者に対して事前研修 [講師]池田教授 [会場]石川県社会福祉協議会
9/4-6 第7回 ～ 第14回	東日本大震災被災地における実践活動	被災地の状況を直接見聞したり、現地の方と交流したりすることで災害ボランティアに対する意識を高め、理解を深めてもらうため、宮城県石巻市等で活動
9/7 第15回	被災時に即応できる災害ボランティアネットワーク	今後の学生災害ボランティアの活動について、グループワークで検討、提案 [講師]池田教授、八重澤教授、武山教授、田中准教授、茂尾専門員、北村防災ボランティアリーダー、上田専務理事兼事務局長 [会場]県文教会館

【概要】

開催方法：大学コンソーシアム石川のシティカレッジを活用（単位互換事業）
提供大学：金沢星稜大学
講師：研究会委員がそれぞれの専門分野で担当
池田教授（金沢星稜大学）、八重澤教授（金沢大学）、武山教授（県立看護大学）、田中准教授（北陸学院大学）、茂尾専門員（県社会福祉協議会）、七尾事務局長（輪島市社会福祉協議会）、北村防災ボランティアリーダー（日本赤十字社石川県支部）、上田専務理事兼事務局長（県民ボランティアセンター）
受講生：金沢大学、県立看護大学、金沢星稜大学、北陸学院大学、金城大学、放送大学から38人が受講

避難所運営ゲーム(HUG)で、次々と発生する事象に対して素早く判断して行動しなければいけない避難所の運営を体験し、その感想や反省点を話し合った。



被災地での復旧・復興の状況にはフェーズ(段階)があり、フェーズ毎で必要とされる支援が異なるので、自分がボランティアできるフェーズを見極めて行動することが大切であることを学んだ。



学生として今後できる活動について、グループで話し合った内容を発表し、それぞれの提案を受講生全員で共有した。



②被災地における災害ボランティア実践活動

実際に被災地を訪れ、被災地の状況を直接見聞したり、現地の方と交流したりすることで、災害ボランティアに対する意識を高め、理解を深めてもらうため、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市を中心に活動を行いました。

【概要】

日程：平成25年9月4日(水)～6日(金) [2泊3日]
行先：宮城県石巻市、東松島市、松島町
移動：大型バス1台(現地での移動時にも使用)
参加者：28人
活動内容：大学、新聞社、NPO法人など多岐にわたる立場からの講義のほか、小学校での児童との交流を実施
参加者は一日ごとに活動報告書を作成
研修のまとめとして最終日前夜にグループワークを行い、相互に考えや意見を共有
宿泊：松島フットボールセンター
連携協力：石巻専修大学山崎省一教授の協力を得て実施
その他：参加者本人及び未成年者の保護者より同意書を提出
国内旅行傷害保険に加入

【スケジュール】

日時	活動内容
9月4日(水) 2:30～3:30	看護大学→金沢星稜大学→若松 集合
4:00	県庁出発
13:30	石巻市到着
14:00	石巻 NEWSee 講義「石巻かべ新聞」 石巻日日新聞社常務取締役 武内宏之氏 市街地自由散策
15:30	松島フットボールセンター 講義「震災後のスポーツ支援」 NPO法人石巻スポーツ振興サポートセンター理事長 松村善行氏 (宿泊：松島フットボールセンター)
9月5日(木) 5:30	起床
7:30	松島フットボールセンター 講義「安全の考え方」 石巻専修大学教授 山崎省一氏
9:00	縄文の里見学
10:00	宮戸小学校の生徒との交流活動 クリスマス用展示絵作成、授業・クラブ活動参加
16:30	大川小学校見学
19:30	松島フットボールセンター 研修のまとめ (宿泊：松島フットボールセンター)
9月6日(金) 6:00	起床
9:00	石巻専修大学 講義「東日本大震災、その時学校は」 石巻専修大学非常勤講師(門脇小学校前校長) 鈴木洋子氏
10:30	南浜地区視察(門脇小学校、日和山公園)
12:30	松島町視察
14:00	松島町出発
21:30	県庁到着
22:00～23:00	若松→金沢星稜大学→看護大学 解散



石巻日日新聞社の武内常務から地震発生直後に壁新聞を発行したプロ意識を学んだ。



石巻スポーツ振興サポートセンター松村理事長から復興におけるリーダーシップを学んだ。



宮戸小学校の生徒たちとクリスマスに展示する絵を作成しながら、いろいろなことを話した。



門脇小学校の鈴木前校長から日頃の訓練の大切さやリーダーの判断方法を学んだ。



石巻専修大学の山崎教授から辛い判断を求められるなどリーダーの心構えを学んだ。



宮戸小学校の生徒たちに普段はできない多人数でのクラブ活動を楽しんでもらった。



実践活動で見聞き感じたことをまとめて各大学祭で展示し、周りの学生にも伝えた。

【受講生の声】

- ・講義を受けて、災害ボランティアにも様々な活動があることがわかり、近くに感じる事ができた。
- ・被災者支援は誰かがやってくれるものと思っていたが、自分からボランティアをやりたいと思うようになった。
- ・自分たちの地域でこれからできる防災活動や現在の被災地で行えるボランティア活動を自主的に考えられるようになった。
- ・実際に被災地へ行って見て、災害を自分のこととして感じる事ができた。
- ・被災された方の話を実際に聞いて、災害について今までとは違う視点で考える事ができたし、被災直後の困難な状況を間近に感じる事ができた。
- ・被災地で見えたこと、聞いたこと、感じたことを身のまわりの人に伝えることが大切だと思った。

【受講生の相互ネットワーク】

シティカレッジ講座や被災地での実践活動をきっかけに、受講生同士が災害又は防災に関するボランティア活動を行うため、大学の枠を超えたネットワーク「石川県学生災害ボランティアネットワーク(通称「すとりばネット」)を立ち上げました。(12月4日)学生が中心となり、学生ならではの視点で災害ボランティア活動の連絡調整や普及・啓発などの取り組みを行い、本事業の研究会委員や県民ボランティアセンターがサポートしていきます。